

グループ・ディスカッションを中心とした授業展開

附属教育実践総合センター・太田佳光

1、本授業のねらいと概要

本授業は、学生がさまざまな教育実践上の課題を主体的にとらえ、その対応策を、教師になった自分自身の問題として考えることをねらいとしている。そのため、非行やいじめなどの現代のわが国の教育問題を取り上げ、その対応について具体的に考察することとしている。また、ビデオ映像や実践資料を使用し、実際の問題場面を提示し、それについての具体的対応の考察を大切にしたい。受講生数は、35名である。

本学部のディプロマ・ポリシーとの関連では、「教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。」に、主として関わる。

授業概要は、以下の通りである。

- ①教育問題の現状と課題
- ②授業妨害と逸脱（1）ある事例の検討から
- ③授業妨害と逸脱（2）逸脱論とボンド理論
- ④逸脱行動と立ち直り（1）実践事例からの考察
- ⑤逸脱行動と立ち直り（2）：ラベリング論と生徒指導
- ⑥逸脱行動の現状と課題：教師の役割とは
- ⑦第1回から第6回までの補足説明（授業の進み方により、第6回の内容が入ることもあるため）
- ⑧いじめ問題と教師（1）ある事例の検討から
- ⑨いじめ問題と教師（2）カウンセリングマインドと教師
- ⑩いじめ問題と学級集団（1）いじめの類型化と生起のメカニズム
- ⑪いじめ問題と学級集団（2）集団論といじめ
- ⑫教育問題と学級づくり（1）いじめを起ささない学級づくりとは
- ⑬教育問題と学級づくり（2）集団を意識した学級づくり
- ⑭教育問題と学級づくり（3）：人間関係を意識した学級づくり
- ⑮総括的討論

2、授業の工夫と学生評価

本年度は、これまでの取り組みを生かしながら、グループ・ディスカッションに焦点化した取り組

みを行った。具体的には、エルモの教材提示装置を使用したディスカッションの実施である。すなわち、授業者による問題提起（多くは、ビデオ映像を使用した問題場面の提示）の後、小グループによる話し合いを行い、そのまとめをA4用紙に書き写し提出させた。次の時間、小グループによる発表（3グループ程度）、その後の討論という流れである。

授業終了時に、学生に対してコメントの提示を求めた。なお、本年度も自由記述方式で、数量的アンケートを用いなかったのは、具体的なコメントから、それを今後の授業改善への一助としたい思いが強かったからである。

その結果、本授業の工夫への評価として以下のようなコメントがあった。

- ・「一つ一つ客観的に事例を考えることができ、良かった。仲間と話し合うと、どんどん対応を考えることができた。グループも専修が違うメンバーと組み、新しい考えが得られて良かった。」
- ・「グループで考えたり、それを発表し合って他のグループの考えを聞いたりすることで、ただ講義を聴くよりも、考えを深めることができたと思います。」
- ・「具体的にどう支援すればよいのかなど、整理しながら意見を出し合って考えることで、とても頭に入った。理論的なものとも結びつけることで、より深く考えることができた。また、いつも同じ班で、グループ名も決めることで、より主体的に授業に参加することができた。」

ほとんどの学生が同様のコメントを寄せてくれ、おおむね本授業のねらいは達成されたと考えられることができる。

改善点としては、事例（DVD）を、より新しいものにすることや、グループを流動化することなどが、指摘された。授業者による反省点としては、ディスカッションの質をさらに向上させる手立ての必要性を感じた。上記のコメントから分かるように、学生個々は、自分の中では良く考えているのだが、それを本当の議論にまで発展させることは、まだ出来ていないように感じた。